

琉球大学学術リポジトリ

タイ現代建築における地域主義建築表現に関する研究：新国会議事堂設計競技案を通して

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2019-05-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 樹典T メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/44477

平成 31年 2月 8日

琉球大学大学院
理工学研究科長 殿

論文審査委員

主査 氏 名 小倉 暢之

副査 氏 名 清水 肇

副査 氏 名 カストロ・ホワン・ホセ



学位（博士）論文審査及び最終試験の終了報告書

学位（博士）の申請に対し、学位論文の審査及び最終試験を終了したので、下記のとおり報告します。

記

申請者	専攻名：総合知能工学 氏名：佐藤樹典 学籍番号： XXXXXXXXXX	
指導教員名	小倉 暢之	
成績評価	学位論文 <input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格	最終試験 <input checked="" type="radio"/> 合格 <input type="radio"/> 不合格
論文題目	タイ現代建築における地域主義建築表現に関する研究 ～新国会議事堂設計競技案を通して～	
審査要旨（2000字以内） 本論はタイの建築界において関心を集めている地域意匠と環境デザインの融合に関する研究である。申請者は気候的にも文化的にも沖縄と共通する点の多いタイの建築について、博士前期課程在籍時に本学の協定校であるキングモンクット工科大学ラカバン校に留学し、以降、タイと沖縄を頻繁に往復してタイ建築界の動向について研究して来ており、本研究はその集大成とも言える成果である。 申請者が注目したのは2008年に開催されたタイの新国会議事堂設計競技で、これにはタイ国内から130案の応募があり、その中から二次審査で5案が選ばれ、その中から最終的に当選案が決定したのであるが、いずれもタイの地域意匠と現代世界の大きな関心事である地球環境問題に影響		

(次頁へ続く)

を受けた環境デザインとの統合の取り組みに特色が見られ、それらの設計手法はタイのみならず、東南アジアは元より豊かな伝統文化を有する国々の現代建築意匠に共通の課題であり、その解明はこれら地域の建築意匠の動向を考察する上で有用な手掛かりを提供するものと期待される点に大きな学術的意義を有している。また、研究の具体的実施方法として、現地で収集した設計競技提出作品の資料を基本に、各種雑誌の記事収集、設計関係者へのインタビューの実施等を行い、併せて協定校の教官から得た多くの助言を参考に遂行している点にも研究の創意工夫が窺える。

本論では、国会議事堂という国家のシンボルとなる建築のデザインについて、これまでタイでは二例あり、それぞれが建設当時の時代背景に強く影響を受けている点を指摘し、さらに、今回も国内外での環境意識への高い関心がデザインの方向性に影響を与えている点を競技設計応募要項にある評価項目と配点から指摘している。また、タイ国内の環境意識の潮流については、90年代のアジア通貨危機以降国家的取り組みとして国王による「足るを知る経済」の提唱についても触れ、欧米主導の建築環境評価基準とは別に、タイ独自の建築環境評価基準の考案と実施の流れを解明した。

設計競技案の分析では、地域意匠の表現と環境デザインを中心に行い、それぞれの案に特徴的な部分と共通する部分とを明らかにしている。国家のシンボルとしての国会議事堂に相応しい意匠については、寺院の塔や屋根、また蓮華といった仏教関連のモチーフ、さらには国民議会の紋章にある図柄を用いてデザインしており、その内容は広く国民に分かり易いものとなっている。また、各モチーフの表現方法についても、明喩的表現と隠喩的表現とに分類し、地域意匠の用い方に形態の直接的引用と間接的引用の相違がある事を提示している。そして、これらの意匠がどの様に環境デザインとして成立するのかについての分析を進め、共通して見られたのが当時世界標準として先進的評価基準とされていた LEED を参考にしていた点を明らかにしている。殊に LEED の項目にある持続可能な敷地とエネルギー及び環境の二つの項目への対応については5案に共通して見られ、ヒートアイランド現象や照明・空調に対する配慮が目立つ事を述べている。

さらに環境デザインのタイプについて、5案を相互作用型環境デザインと補助型環境デザインに分類し、その違いを明確化している。すなわち、相互作用型環境デザインは地域意匠と環境デザインが一体的に設計される統合方法で、3案が該当している。また、他の2案に当たる補助型環境デザインは地域意匠をベースとした建築物の形状に環境デザインを補助的に取り入れる統合方法としている。

そして、地域意匠と環境デザインの統合については、地域意匠の二つのタイプと環境デザインの二つのタイプの組み合わせ、すなわち四通りの組み合わせに全てが分類される事を導き出している。これは80年代から現れた普遍的で新しい建築様式である環境主義建築が地域主義建築表現を獲得する過程を理解する上で有用な視点を提供するものであり、本研究成果は近代建築史の研究分野を大きく切り開くものとして高く評価される。

したがって、本研究成果は学術的に有用であり、提出された学位論文は博士の学位論文に相当するものと判断し学位論文の審査を合格とする。また、論文発表会における発表ならびに質疑応答において、申請者は琉球大学大学院理工学研究科博士後期課程修了者として専門分野および関連分野の十分な知識ならびに十分な研究能力を有していることが確認できたので最終試験を合格とする。